
今日見る明日

桐月那薙

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

今日見る明日

【Nコード】

N61380

【作者名】

桐月那薙

【あらすじ】

たぶん、さわやかを目指して

(前書き)

某所に投稿したことがあるものです。

見たことあるよと報告してくださる方がいると、作者は身悶えます。

見上げた空は快晴で。
そよぐ風は心地よく。

だったらこんな日は、出かけましょうか

「んじゃ行くぞ、すっかりつかまってろよ」

「ええ、大丈夫よ」

言った彼女は、腕を腰にまわす。

「……お前さあ、わざと？」

「へ？ 何が？」

なかなかの胸が背中押し付けられている。

年頃の少年にとっては、なんともいえない状況。

このままにするべきか、それとも言うべきか。ひとしきり悩んで一言。

「……何でもない」

で、結局このままにしておくことにした。

「がんばれー運転手」

荷台に座っているのと背丈の関係で、少女が話し掛けるときは、少年の肩口に顎を置いて下から覗きこむような体勢になる。

ニヤニヤと少女はからかうような笑みを浮かべているを見て、わざとだなと少年は悟る。

「お前さ、結構でかくなつたな」

お返しとばかりに、率直な感想を一言。

「へ？ なにぎゃっ！」

ガコン、と前触れもなく自転車が走り出し、少女は軽く悲鳴を上

げる。

「んじゃ、走るぞ」

「言うの遅い！危うく舌噛みそうになった！」

「残念、少しは静かになると思っただけだな」

「うるさくて悪かったわね！」

走り出す自転車。

流れる街並み。

風を切つてどこまでも。

疾く、遠く、駆け抜けて。

二人を乗せて、いつまでも。

「さあ、出かけるわよ」

「お一人で御勝手に」

雲ひとつ無い空の下、太陽もここぞとばかりに自己主張をする、とても晴れた日曜日。

朝も早くから、彼女は玄関前を陣取っていた。

「ちよつとちよつと、幼馴染の誘いを無碍にするなんて、あんたそれでも男？」

「めんどくさいんだよ」

「どこに行くかも聞かずに言うこと？って、ホントちよつと待った」

ドアを閉めて家の中に戻ろうとする少年。慌ててストップをかける少女。

「あのな、お前の後ろにある自転車を見る限り、遠出する気マンマンだろ」

「大丈夫。ちよつと二人乗りしたいだけ　　つて待ってよ」

ドアを閉めて家の中に戻ろうとする少年。慌ててストップをかける少女。

はたから見れば、まるでコントを繰り広げているかのようなやり取りだった。

「つか、よくよく見ればアレ俺の自転車だし」

「ふっふっふ、良くぞ気づいた。私とともにこなければ、この自転車はさらわれてしまうわよ」

「さらつても、犯人わかつてんだからすぐ取り返せるだろ」

「ほんつと、文句が多いわね。いったい何が不満なわけ？」

「だからめんどくさいんだよ。何で休みの日にわざわざ出かけなきゃならんのだ」

その言葉に、はあ？こいつ何言ってるの？という顔を少女は本気でしている。

「だって、こんなにもいい天気なんだよ？」

そう、少女が出かける理由なんてそんなもの。

いつも、思いつきで彼女は歩いていく。そして少年もその後ろを、たとえどんな道であってもついていくと信じて疑わない。

それは、すでに彼女の中で決まっている覆ることの無い大前提。

沈黙が辺りを包んだ。

しばらくして少年は、なんともいえないもどかしさに頭をぼりぼりと引つ掻くと、

「ちよつと待ってる。すぐ仕度する」

少年も甘いなと思いつつも、彼女はこうでなければと思ってしまふところがある。

「早くしてね」

満面の笑みで手を振った。

「で、どこに行きたいんだ？」

「さあ？」

「即答かよ。まあ、んなことだろうとは思ってたけどさ」

「あははー、ふてくされない。それじゃあの雲でも追いかけてみる？」

「却下だ」

「うわあ、即答だよ」

他愛も無い会話を続けながら、あても無く走り続ける。坂を下りスピードが加速する。車が通らない道路など、いったい何を恐れることがあるうか。

街も人も風さえ追い越しどこまでも。

翼を広げ飛び立つ鳥のごとく。遠く遙かに先へ。先へ。

晴れた青空と踊る心が生み出す、そんな幻想。

子供のようににはしゃぎたくなってくる。

いつもなら気づかないかもしれない。

一人では気づけないかもしれない。

でも、後ろに乗せた少女となら絶対に気がつける、きっと共感できる。この心。

「でもさ、私はいんだよ。追いかけても」

「もしもーし、誰が運転手かお忘れで？」

「あははは、そうだった」

「あ、公園寄ってこーよ、公園」

「そうだな。つか、マジ疲れた」

自転車を近くの駐輪場に止める。

この街の中じゃちょっとした大きさをもつ公園。

休日と言うこともあり、他にも結構な数の自転車やバイクが止めてあるのが見えた。ところどころに屋台も立ち並んでいる。

二人背伸びをし、深く息を吸い込む。

こんなときでしか感じられない、言葉にできない空気の意味。

二人の肺いっぱい満たし、ぷはーと声をだして吐き出す。

「うーん、やっぱりいいわね。たまにはこーゆるーのも」

「満足いただけたら幸いで」

「うむ、余はまんぞくじゃ」

わはははーと、本当に楽しそうに笑う少女の横顔を見る。少し見惚れる。

いつまでも、純粋に物事を楽しめる少女が少しうらやましかったから。

「ん？なに、私の顔になんかついてる？」

「なんでも」

「ふーん」

彼女はいいながら、なにか面白そうなことが無いかときよるきよる見回す。

少年も釣られ周囲を見渡すと、走り回る子供たちも勿論だが、男女の二人組がよく目に映る。

休日だから当然だ。誰も彼も楽しそうにおしゃべりをしている。

「あっ、私お腹すいちゃった」

「ただ乗ってただけのやつがよく言う」
「むっ、二人乗りつてのは、後ろに乗ってるヤツも疲れるんだぞ」
「へーへー。まあ俺も腹へってたし、適当にぶらっこうか」
「賛成」

屋台でそれぞれたい焼きとたこ焼きを買い、ぶらぶらと通りを歩く。

「でもさ、こうしてるとき、私たちもああ見えるのかな」
思い出したように少女が呟く。

何が『ああ』なのか。それは頬張っていたたこ焼きを飲み込んだときに気がつく。

「ああ、ね。まあ、男女二人だし、機から見れば見えるんじゃない？」
恋人に。

「うーん、そっか」

首をかしげながら少女は半分になったたい焼きを一口で口の中に収める。

そのしぐさに少し苦笑。

「実際私たちの関係ってなんだろうっね」
「知るかよ」

「即答。ちよつとは考えてもいいんじゃない？ たとえば友達とかさ、恋人とか」

そういうと、少年は腕を組み首をかしげて黙すること数秒。

「わかんねえよ」

「うわっ、絶対考えてないよ」

「だってそうだろ。お前わかるのかよ」

そう言いながら少年はたこ焼きをひとつ口に放り込む。

「うーん」

「出てこんだろ。言葉にできる関係じゃないんだよ」

「えー、そうかな？」

「まあ、強いて言うなら」

「言うなら？」

「あれだ、お前が迷惑をかけて、俺がかげられる。お前が俺をひっぱりだして、俺がそれに付き合う。そんなヤツ」

「なんか、私すぐくわがままに聞こえるんですけど」

「そうだな。でもまあ、お前が飽きるまではつきやっけてやるから安心しろ」

笑いながら残ったたこ焼きすべてを口に入れた。

納得いかない顔つきで、少女もたい焼きまるまるひとつを口の中に入れる。

互いに口の中に収めた量が多いため、頬張る時間が長い。その間、沈黙が続く。

だが、いつしか少女の顔に笑みが浮かびだす。

「なんだよ、気持ちワル」

「ふふーん。つまり、あんたは私とずっといるわけね」

「はあ？」

「だって私が飽きるまでって。だったら私は飽きないよ。一緒にいる限りさ」

「……ふーん」

少女がどう解釈してそういう結論になったかは知らない。でも、あの笑みを見ていられれば、とりあえずは、本気で飽きるまで付き合ってやるつもりだ。

「お腹も膨れたし、もうひとつ走り行きますか。もち運転手は」

ちらつと流し目。あんまり色っぽくない。

「了解」

「それじゃ、行きましようか」

走り出す自転車。

流れる街並み。

風を切つてどこまでも。

疾く、遠く、駆け抜けて。

流れる雲を追いかけて。

二人を乗せて、いつまでも。

ずっとずっと、いつまでも。

そんな晴れた日曜日。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6138o/>

今日見る明日

2010年10月31日07時10分発行